

## 第1 今年度の取組と自己評価

### 1 学習指導

- ① (取組) 生徒に学ぶ喜びと意欲をもたせ、主体的に考えて学習する力を身につけさせる。  
(自己評価) 考えを深めるために、自分の考えを必ず持たせる働きかけを工夫した。生徒が主体的に考えることができるように、目標とまとめを大切に、わかる授業を実施できた。  
【生徒：積極的に授業に取り組む87.7% 教員：わかる・考える・認め伸ばす授業95%】
- ② (取組) 新学習指導要領「教科道德」に向けた実践を行ない、生徒の道徳的実践力の向上を図る。  
(自己評価) 効果的な主発問や仕掛けの工夫を考えた道徳の授業実践を行い、全教員のローテーション授業により、全て教員の授業力の向上を図った。新学習指導要領に基づいた道徳の評価を実施できた。【教員：生徒の道徳実践力を高める指導87%】

### 2 生活指導・進路指導

- ① (取組) 基本的な生活習慣の確立と学校生活の秩序を保つ、ルールを徹底する。生徒誰もが安全で安心した学校をつくる。  
(自己評価) 上級生・中学生が手本を示す行動が様々な教育活動でできた。あいさつ運動、授業規律などで中中連携を図り、連続的な習慣となってきた。【生徒：決まりを守る93.7%】
- ② (取組) 生徒の自己肯定感、自己有用感を高め、生徒一人ひとりがいかされ、活躍できる場を設定する。  
(自己評価) 教員が行事だけでなく、多くの生徒が活躍する場面を設定し、自己肯定感や成就感を高めようとしている。また、生徒も仕事にやりがいを感じ、学校生活を楽しく過ごしている。  
【生徒：学校生活が楽しい91.3% 教員：自己肯定感、有用感、成就感を感じさせる87%】
- ③ (取組) 地域の一員の自覚を持ち、体と心の健康、防災や安全の意識を高め、人や社会との関わりを通して、自己の生き方を考える。  
(自己評価) 「命の授業」「防災スクール」「職業講話」「職場体験」福祉体験「浅間山保全活動」などの体験活動を通して、一生懸命取り組む姿を他の人に見てもらうことで、人や社会の関わりを知り、将来の生き方を考えさせることができた。

### 3 学校運営

- ① (取組) 事案決定や管理運営に関する規程に基づいた組織運営を行い、教育目標達成、課題解決のために組織的な推進を図る。  
(自己評価) 主幹教諭、指導教諭が増員し、既存の分掌だけでなく、特別支援委員会、情報セキュリティ委員会などで、目標達成や課題解決を確実にできた。また、多方面からの視点で、意見が出され、深まった議論ができた。【教員：組織的な学校運営91%】
- ② (取組) 生活指導体制をより確実なものとし、生活指導主任を中心とした一貫性のある全校体制を構築する。  
(自己評価) 情報収集、情報交換を確実にしない、課題発見・対応・解決を速やかに行うことができた。特に、学年主任と担任が協働して、チームとして対応することができた。  
【教員：チームとしての課題対応の意識96%】
- ③ (取組) 円滑で確実な仕事運営により、見通しを持ち、ゆとりを持った計画的な職務遂行を行う。  
(自己評価) 仕事の分担や複数で関わることで、相談し具体的な支援を行なった。ミスの未然防止や迅速な解決ができた。タイムレコーダーの記録を利用し、適切なゆとりのある勤務態勢を作っていく。【教員：具体的な助言、支援82%】
- ④ (取組) OJTガイドラインに基づいて、OJTを組織的・計画的に推進し、人材育成を図る。  
(自己評価) OJT校内研修会、主幹教諭、都事務主任によるミニ研修会、校内課題研修会などで、「情報セキュリティ」「特別支援教育」「教科道德」について深めたが、研修の仕方など改善

点がある。【教員：人材育成、OJTの推進68%】

- ⑤（取組）保護者・地域と信頼関係を構築するため、PTAとの関わりや青少対委員会との連携を強化する。また、地域人材や施設の活用を積極的に図る。  
（自己評価）学校行事や保護者会、PTA行事・地域行事等へ多くの教職員が積極的に参加することができた。また、部活動などで地域のイベントや青少対委員会の行事に参加する生徒も増えてきている。【教員：地域行事への参加の働きかけ54%】

#### 4 特別活動・その他

- ①（取組）生徒の頑張りや活躍が保護者・地域に元気や感動を与える。  
（自己評価）合唱祭等で、自分たちの経験を伝え、伝えられたことさらに良くすることで伝統を築いていくことができた。また、浅間中の良さである明るい雰囲気、生徒が作り上げる学校にすることができた。【生徒：明るいあいさつ87% 教員：明るい学校づくり100%】
- ②（取組）地域の一員として認められ、地域や他の人のために自分たちのできることを実践していく。  
（自己評価）小中連携の様々な活動や青少年対策委員会と連携した地域貢献など、参加人数も年々増え、良い伝統となっている。
- ③（取組）学校や社会で求められている様々な課題に取り組む。  
（自己評価）オリンピック・パラリンピック教育では、オーストラリア・ロビーナ高校との学校交流、健康教育では、「がんについて学ぶ」、自殺防止教育では、「SOSの出し方教育」など、外部団体と協力して取り組むことができた。特に、困ったときに誰かに相談することを日頃からくり返し指導できた。
- ④（取組）子どもの良さを引き出し、自主的に活動する集団づくりを行う。  
○自分の良さに気づかせ、子どもたちとの関係を深めることで、それを伸ばしていく。  
○学び合い、励まし合い、高めあう経験をすべての子どもたちに感じさせる。  
○日常的な取組、協働的な学びで、子どもたちの良好な人間関係づくりを図る。  
○教師と子どもの日常的な相互交流（つながり）を強める取組を実践する。  
（自己評価）教員が子どもの良さを引き出すことを意識することで、生徒理解が深まり、信頼関係が強くなっている。生徒が創り上げる行事の伝統が引き継がれている。

## 第2 市の施策について

### ア コミュニティ・スクール及び小中連携、一貫教育の実施状況

- ・小・中連携・一貫教育では、各教科で共通の視点を考え、カリキュラム接続のための具体的な方策を実践した。
- ・小中連携の日実施にあたり、事前・事後に管理職、コーディネータ連絡会を開催し、授業や行事での取り組みやカリキュラムの編成を図れた。府中第二小、若松小へ、中学校の教員が出前授業を行ない、中1ギャップの解消を図った。今年度から小学校の要望に応え、部活動体験（3日間）を実施し、児童・保護者の理解が深まった。
- ・3月に入学に配慮が必要な児童・保護者との面談を実施して、安心した気持ちで入学できるようにしている。

### イ 学校経営支援予算の活用及び成果と課題

- ・現在、数学の学習支援や図書館指導、日本語指導が必要な生徒へのために支援員を活用している。
- ・スクールカウンセラーや市教育センターとの情報の共有を進め、配慮が必要な生徒の困っていることを知り、具体的に解決できるよう、支援員を活用し、学校でフォローすることができた。

### ウ 副校長等校務改善支援事業の活用及びその成果と課題

- ・教員が担当する委員会や分掌の資料印刷や作成を支援員が行なっている。支援を活用することで、副校長の授業観察や指導の回数が増えている。また、様々な調査の準備・整理などを支援員が副校

長を補佐することで、書類の提出が早くなり、正確性が高まっている。

エ 東京都や市の研究協力校等の制度の活用及びその成果と課題

- ・地域の医師や助産師さんと協力して、3年生に対して、生命の大切さや心の健康についての取り組みを行なっている。
- ・2年生に対して、市の健康推進課と協働で、SOSの出し方教育を各クラスで授業を行ない、何か困ったことがあったら、誰かに相談したり、大人や外部機関などへつなげたりする指導ができた。
- ・「多摩の医療健康増進フォーラム」の医師により、「がん教育」を全校生徒に対して、実施した。生徒の感想では、「がんは早期発見で治る」「がん検診の大切さ」「がんになっても、治療をしながら、働くことができる」などの「がん」に対する理解が深まった。